

**令和5年度  
食品ロス削減のための商慣習検討ワーキングチーム  
日配品の商慣習に関する検討会**

**今年度の実施内容について**

**令和5年7月28日（金）**

**事務局：公益財団法人 流通経済研究所**

# 目次

---

1. 取り組み目標について
2. ポイントをおきたいこと
3. 検討会の開催予定
4. 本年度の取組の全体像
5. 調査概要
6. 実証的取組及びヒアリング
7. ご意見をいただきたい点

# 1 取り組み目標について

---

## ■ 目的

- 日配品は、賞味(消費)期限が短く、在庫できる期間が限られるため、食品ロス削減に向けた管理が難しい。これを背景として、メーカー・小売とも需要予測誤差によって生じる廃棄率が、ドライ食品等と比べて高くなっている。また、生産計画や発注量を実需と等しくしていくには、メーカーには小売の発注前倒し、小売にはメーカーへの発注後ろ倒しが有効であるため、いかにそのなかでWin-Winを生み出せるかもポイントとなる。他方、小売の発注から納品までの時間が短いと、納品車両の効率的な確保が進まず、納品のための深夜集中作業が生じやすいとの指摘もある。一方で、小売業が手法の革新によって予測精度を高め、自動発注を組み合わせることで作業コストを軽減し、2つの効果をもって、食品ロス・物流の状況を鑑み、発注の前倒しを行った事例もある。
- そこで、本検討会は、製・配・販とも削減が課題であり、解決が難しい日配品の食品ロスについて、先進技術や物流問題への対応など広い視野を持つことによって、削減の取組を進める。

## ■ 目標

- 発注適正化に関する推進指標を設定し、その公表企業を50社とする。
- 商慣習見直し(発注適正化等)の取組事例(試行的取り組みを含む)を7社行う。

## 2 ポイントをおきたいこと

---

### ■ 取り組み事例の発掘・創出とその効果検証

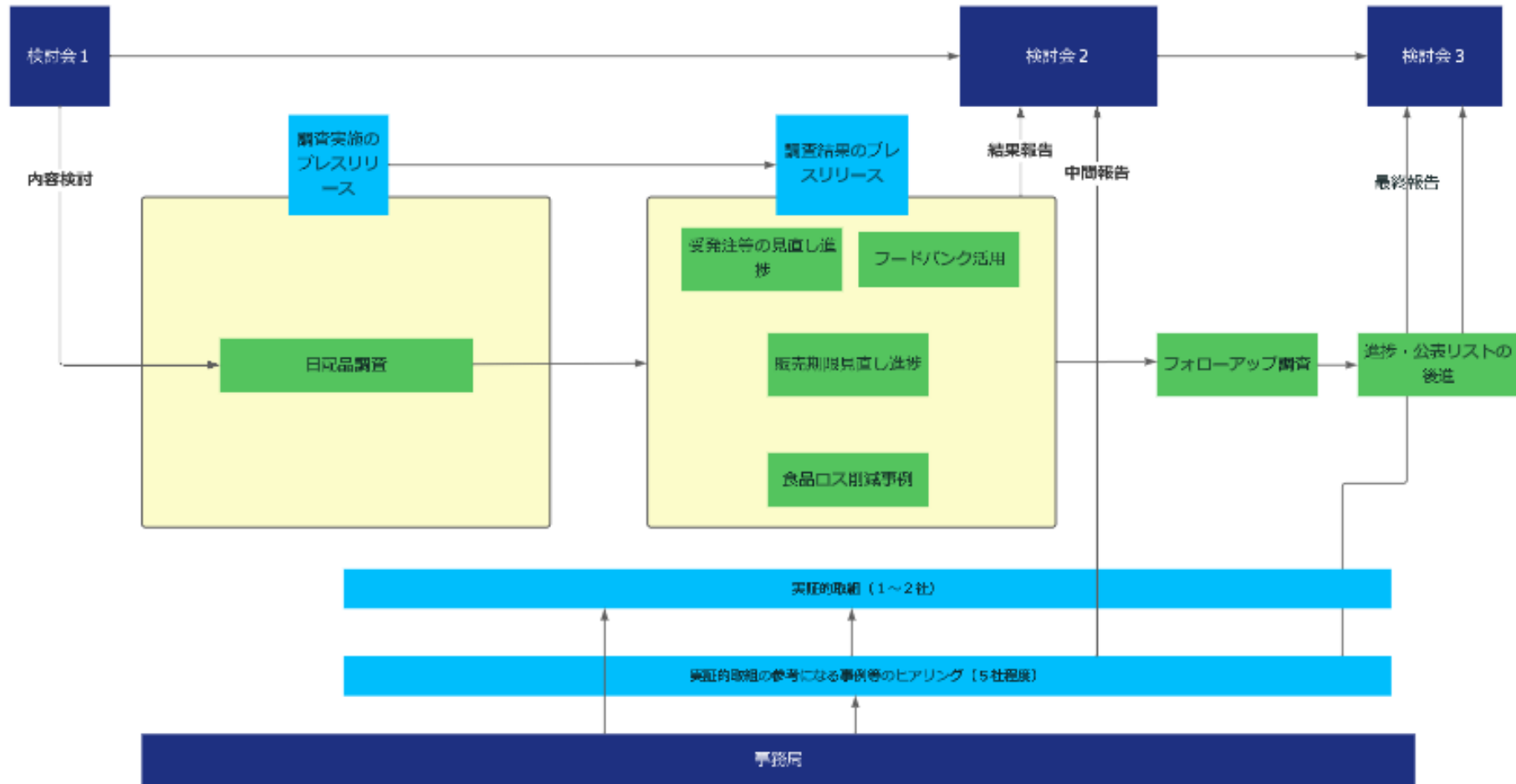
- 日配品において、トラックドライバー不足のために今までの様に食品を運べなくなるとの危機意識のもと、商慣習の見直しに取り組み、物流だけでなく食品ロス削減の成果を上げる取組が広がりつつあり、こうした効果の検証を図りたい。
  - ・ イトーヨーカ堂はパンの発注日を納品前々日に繰り上げ、サプライチェーン全体での食品ロス削減や配車手配の効率化が進んでいる。
  - ・ ミニストップは、負担の大きい夜間の荷受注時間の前倒しと出荷時間の後ろ倒しすることによって、メーカーの生産効率の改善、食品ロス削減、トラック積載率の向上や荷受の軽減といった成果が出ている。
  - ・ 総菜メーカーとコンビニエンスストアは、メーカーが1日消費期限を延長し、その半分を販売期限延長に回し、同じ需要予測精度であればロスが出にくい状況を作った上で、メーカーへの発注時間の前倒しを行うべく検討している。

### 3 検討会の開催予定

---

回	時期	検討内容
第1回	令和5年7月28日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 実施方針</li><li>・ 調査等計画の内容</li><li>・ 商慣習見直しの日に向けて</li><li>・ 今後の予定</li></ul>
第2回	令和5年11月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 実施結果の中間共有</li><li>・ 商慣習見直しの日への取り組み結果</li></ul>
第3回	令和6年2月～3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 実施結果の共有</li><li>・ 業界へのメッセージと次年度方針の検討</li></ul>

# 4 本年度の取組の全体像



## 5 調査概要 (1)日配品調査

---

調査目的	食品ロス削減の取り組み、発注方法、及びフードバンク活用等の現状を把握し、今後の施策示唆を得る。
調査対象	スーパー、生協、ドラッグストア等の食品商品部責任者、もしくは日配食品部バイヤー
調査方法	郵送調査
配布数	約1000
実施期間等	2023年8月～9月

## 5 調査概要 (1)日配品調査

項目	内容
調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>• 日配品の年間売上高</li><li>• 取引先への確定発注数量連絡のタイミング</li><li>• 納品期限</li><li>• 販売期限</li><li>• 日配品の値引・廃棄ロス率</li><li>• 自社の日配品の食品ロス削減に有効な取り組み</li><li>• 日配品の店舗での欠品率</li><li>• 日配品のフードバンク・子ども食堂などへの寄附の状況</li><li>• フードバンク活用における税制特例措置の活用状況</li><li>• フードバンク等に食品を提供することのメリット</li><li>• フードバンク等に食品を提供することの障壁</li><li>• PBのフードバンク寄贈について</li><li>• SDGsに対する貴社の取り組み状況</li><li>• 受発注や物流の改善に向けた貴社の取り組み状況</li><li>• 事例公表や実証実験実施等の協力意向</li></ul>



## 5 調査概要 (1)日配品調査

---

### ■ 昨年度からの変更点

- 自社の食品ロス削減に有効だと考える取り組みに関する設問の簡素化

## 5 調査概要 (2)公表項目

公表項目	公表条件
受発注・物流に関する取組内容	
店舗販売期限	賞味(消費)期限当日まで販売
SDGsの取組状況	
フードバンクの活用状況	

**10月末に公表し、2-3月に公表内容の変更点を確認する**

## 6 実証的取組及びヒアリング

### ■ 実施目的・概要

- 調査から、需要予測精度向上、発注適正化、発注自動化に関心のある企業を抽出
- 上記実現に向けた実証的取組を行う

### ■ 取組の方向性(案)

- 需要予測精度向上の可能性検討
- 発注精度向上の可能性検討
- 作業軽減効果の試算
- テスト導入、効果検証

### ■ 昨年度調査結果からの抽出

スーパー	熊本県
スーパー	長野県
スーパー	大阪府
ドラッグストア	岐阜県
スーパー	高知県

## 6 実証的取組及びヒアリング

### ■ ヒアリングの実施目的・概要

- 受発注・物流の見直しの取組の進め方、体制、課題への対応を調べ、他社が参考にできるように整理する
- 情報を実証的取組を行う際にいかす

取組内容	実施時期	取り組みの促進要因	実施時期	取組によって生じた効果・問題点				問題点への対応など	効果等				意見		
	いつ頃から始めたか	緩和のきっかけ・理由など	様々な関係部署が連携する体制構築の進め方	実施の効果とそのためポイント（留意点）		実施への障害、実施後の問題点		取り組みの過程や実施後に生じた課題・問題点への対応のポイント	食品ロス削減の効果	物流効率化の効果	従業員の作業面・意識面の変化（効果）	顧客の反応・効果（プラス面・マイナス面）	自社の需要予測精度向上に有効な取組	自社の発注精度向上に有効な取組	自社の作業軽減に有効な取組
				小売業にとって	メーカー・納入業者にとって	小売業にとって	メーカー・納入業者にとって								
発注リードタイム延長															
納品頻度削減															
サプライチェーンにおける情報の連携の推進															
需要予測精度向上と発注適正化の連携															
その他															

## 7 ご意見をいただきたい点

---

- 1 取り組み目標について、2ポイントをおきたいこと
  - 加筆すべきこと
- 4 取組内容
  - 取組内容の修正・追加
- 5 調査
  - 内容の修正・追加
  - 公表項目の修正・追加
  - 公表基準の修正
- 6 実証的取組及びヒアリング
  - 進め方